

日本ブランド発信事業

マンガワークショップ&講演会 in パナマ・マイアミ

2016年3月

「日本ブランド発信事業」専門家(マンガ)
京都精華大学マンガ学部准教授 西野公平

外務省の日本ブランド発信事業による派遣専門家として、2016年3月8日と9日にパナマ共和国パナマシティで、続いて3月11日と12日にアメリカ合衆国マイアミで、それぞれ毎日複数回のマンガワークショップとマンガ・アニメに関する講演を行いました。移動日も含め3月7日から14日まで、全行程8日間のイベントでした。日本の代表的な文化の一つであるマンガ・アニメについて、海外の方により多く深く知っていただき、マンガファン、日本ファンを増やしていく事が目的でした。



西野公平

講演のタイトルは「マンガ家はどうやってマンガを作っているのか～日本マンガ業界の現状～」。内容は以下のようなものでした。

- ・マンガ業界の概要
- ・ビジネスとしてのマンガの重要性
- ・なぜマンガ・アニメが全世界で受け入れられるのか？その秘密…
- ・マンガ家はどういうプロセスでマンガを描いていくのか？

今回は特に海外にあまり知られていないマンガのビジネス上の特性について語りました。



マンガワークショップは、日本から用意していったペン、インク…などプロマンガ家が実際に使っているのと同じ道具を使ってもらい、私が用意した下書きに実際にペンを使って絵を描く体験をしていただきました。



上出彩

私は今までアジア、ヨーロッパ、北米など十数都市で今回と同様のワークショップや講演を行ってきましたが、今回はその中でも特別な意味を持つイベントとなりました。それは今回、私が教鞭をとっている京都精華大学マンガ学部在籍しているマンガ家…上出彩(かみで あや)さんを実演の要員として同行できたからです。

上出さんは学生といってもすでにプロ級の実力の持ち主で、今回はその腕を生かしてワークショップでペン入れの実演をやってもらいました。

私は以前から、海外にマンガを伝えるための若い人材を育てたいと考えておりました。元々絵描きは内向的な性格が多いため、海外に積極的に出て行く人材が育ちにくいという事情があります。それを少しでも打破するために、若者に海外で教鞭を取る経験を積ませたかったのです。私の無理な願いを実現するためにご尽力いただいた外務省広報文化外交戦略課の方々には、本当に感謝しております。

パナマで2カ所、マイアミで2カ所、上出さんの実演を見本にしたペン入れの体験ワークショップをしてきましたが、参加者の反応は今までの私の経験とは大きく異なるものでした。参加者から留学について…特に大学へ留学に関する具体的な質問が多く上がったのです。これは私が実演をしていた従来のワークショップではなかったことです。



講演でも言うのですが、マンガは若者の文化です。マンガ家も読者も若く、同世代の共感が人気の大きな要素なのです。

従来のように「偉いマンガ家」の私が実演している時には、ここまで留学の話が質問で出ることはありませんでした。同世代の上出さんが目の前で描くことで、「自分でも描けるのではないか？」という気持ちが参加者の若者に生まれ、そして同時に「マンガの本場の日本で学びたい」という気持ちが芽生えたのだと思います。

このような気持ちはマンガの普及に大変重要です。毎年何十万人もの参加者を集めるコミックマーケット(コミケ)はマンガ同人誌の即売会です。つまりマンガファンがマンガを描いて、それをマンガファンが買っているのです。そこでは描き手と読み手が大変近い関係にあり、描き手も読み、読み手も描きます。そしてその相乗効果でファンが増えていくのです。

同じ効果を海外の若者に与えることが出来る今回の試みは大変興味深く、これからのマンガの普及を考えた時に、大きな推進力になると確信しています。



以下、日程に沿って講演、ワークショップでも出来事を記していきます。

3月7日 成田からパナマへ移動

- ・ 夕方にホテルに到着し、磯部駐パナマ大使とお食事。マンガの現状、明日以降のワークショップの内容確認。

3月8日

- ・ マンガワークショップ

場所:パナマ大学芸術学部

時間:10:00~12:00

参加人数:29人

パナマで最初のワークショップはパナマ大学の芸術学部で行われました。参加者が美術系の学生だったため、ペンの使い方などがとてもうまく、質問も専門的なことが多いのが印象的でした。



- ・ 講演

場所:パナマ現代美術館

時間:19:00~20:30

参加人数:95人



パナマの民族性として「時間の感覚がゆるく、場合によっては講演が始まってからも三々五々観客が集まる場合もある」…と聞いていたのですが、実際には開場前にすでに多くの方がいらっしやっており、開場を早めました。客席も満員で、パナマでのマンガ・アニメの人気の高さを改めて実感しました。来場者の年齢層は幅広く、子供からお年寄りまでがとても熱心に聴講してくださいました。前述のように、留学に関

する質問が多く出されました。

3月9日

- ・ マンガワークショップ

場所:ガネクサ美術大学

時間:10:00~12:00

参加人数:26名

こちらも美術系の大学なので参加者のレベルが高く、通常よりもかなり早く絵が仕上がっていききました。磯部駐パナマ大使も参加され、大変和やかな雰囲気の中で行われました。



終了後、国営放送局(SER TV)による取材とインタビューを受けました。日本のマンガに対する関心の高さが伺えます。インタビューでは日本のマンガの現状に加え、海外からマンガ家が出る事への期待もお話しました。

- ・ 講演

場所: パナマ大学経済学部講堂

時間: 19:00~21:30

参加人数: 130 人



非常に大きなホールで来場者も多く、観客の反応もとても熱心で好評でした。特にこの会場では留学の質問が多く出て、真剣に日本への留学を考えている学生が多くいました。中にはより詳しい情報を求めて、公演後にお話しに来る学生もいました。質問に来る学生は日本語が達者な方も多く、聞くとマンガやアニメで日本語をおぼえたとのこと。こういった事は様々な場所でよく耳にし、マンガやアニメが日本文化の浸透に大きな役割を果たしていることに改めて気づかされました。

3月10日

- ・ パナマからマイアミへ移動。到着後マイアミ領事館の方々と会合、スケジュールや機材の打ち合わせをしました。高木領事にお目にかかり、マンガの現状、明日以降の講演の内容についての確認をしました。

3月11日

- ・ 講演

場所: パルメット高校ライブラリー

時間: 9:45~11:45

参加人数: 102 人



参加者が高校生と言うこともあり、非常に明るく素直な反応が返ってくるので話しやすい環境でした。マンガ好きな生徒が全面に並び、みな目を輝かせていたのが印象的でした。終了後に上出さんと高校生達との会話が非常に盛り上がっていました。若い者同士は交流も早く、メールアドレスやTwitter アカウント、自分のホームページのURLなどを交換していました。

- ・ ワークショップ

場所: マイアミデイド大学

時間: 15:00~17:00

参加人数: 28 人

コンピュータールームを指定されましたが、インクをこぼした場合の機械への影響を心配し、一時中止も考えました。最終的には机に大きな紙を貼ることで対応する事が出来、無事ワークショップを開催する事ができました。マイアミデイド大学の中でも MAGIC (Miami Animation and Gaming international complex) と呼ばれるデジタルやアニメーションに特化した学科が対象なので、質問も専門的な事が多く、腕も非常に優秀でした。



- ・ 講演

場所: マイアミデイド大学スクリーニングルーム

時間: 18:30~20:30

参加人数: 50 人

ワークショップ会場のすぐそばと言うこともあり、ワークショップに参加した学生も多数参加してくれました。他にも教員の方々やプロのアーティストの方々も参加され、「アーティストとしての生き方」といった話題も出て大変濃い内容になりました。



3月12日

- ・ 講演

場所: 森上博物館

時間: 11:30~13:30

参加人数 105 人



日本庭園を有する美術館と言うことで、日本文化に興味のある一般の方々が来場していました。庭園もとても美しく、ゆったりした雰囲気の中での講演になりました。

公演後、出版関係者との意見交換に加え、京都府宮津市と姉妹都市交流をしているデルレイビーチ市のメンバーとも懇親をし、具体的な日本訪問について話し合いました。

・ワークショップ

場所: Tate Comics(コミック専門書店)

時間: 17:30~18:30

参加人数: 35 人

コミック専門の書店でしたが、マニアだけでなく家族連れなどの参加も多く、大変盛況でした。予定の人数を上回る当日の参加希望があり、画材の予備の分まで使って会場の許す限り参加していただきました。非常に多くの方から感謝のお言葉をいただいた事が印象的でした。



3月13日~3月14日 帰国

以上のように、パナマ、マイアミとも大変盛況のうちに今回のワークショップと講演は終了しました。改めてマンガ・アニメのブランド力を実感すると共に、多くのメディアにも取り上げられ、マンガ・アニメのファン層の拡大、浸透という今回の目的は達せられたと思います。

また、現在パナマ大学、マイアミデイド大学と私が勤務する京都精華大学の間で交換留学などの交流の可能性について話し合いが始まっており、このイベントをきっかけとして新たなマンガ教育の広がりが期待できます。

2000年代、アメリカ西海岸、東海岸など外からの情報に敏感な地域から始まった私のワークショップも、やがてミシガン、テキサス、そしてヨーロッパと時間と共に拡大していき、今回パナマに行かせていただいた手応えを感じると、今後南米に向かってマンガは浸透していくのであらうと思われます。

これからのマンガ文化の浸透のためにも、上出彩さんのような若い作家達が海外にどんどん出て行って日本文化を発信することが急務であり、そのためにも若い作家に海外でのワークショップの経験を積ませる今回のような企画が、これからも継続的に出来る事を強く望んでいますし、また自身でも実行していきたいと思っています。

最後に、今回私と上出さんにこのような機会を頂いたことを心から感謝すると共に、ご支援いただいた外務省広報文化外交戦略課の方々、パナマ、マイアミでお世話になった現地の方々に、改めて御礼を申し上げたいと思います。



磯部駐パナマ大使、ガネクサ大学関係者と



マイアミ領事館、現地スタッフの方々と

みなさま、本当にありがとうございました。

京都精華大学マンガ学部准教授
西野公平

【参考リンク】

[外務省「日本ブランド発信事業」ウェブサイト](#)
[京都精華大学ウェブサイト](#)